

村長選挙公約について / 野甫英芳

村長に対する質問ですけど、先ほどの新垣雅士議員、西銘真助議員と似ているので、その点も含めましてご返答をよろしくお願いいたします。

村長は選挙公約、選挙の公報紙で『未来へつなぐ、4つの大きな約束』として「暮らしきの安心」「未来への投資」「島の元気」「信頼の役場」を掲げていて、その代表的なものとして「特別養護老人ホームを建設する」「子育てシステムを完全無料化」「各字共同売店への仕入れ運賃支援」「独身寮のような村営住宅の建設」「行政情報の見える化」などがあります。それを達成するためには、「ふるさと納税寄附額 2 億円を達成する」と明言しています。

沖縄県全体のふるさと納税のランキングを見てみますと、41 市町村の中で伊平屋村は 31 番目で、現在の納税受取額は 3,300 万。伊是名村が 2,600 万、伊江島は 2,300 万、トップは恩納村で 34 億 200 万円、最下位は渡名喜村で 5 万円なんです。受け取り納税額に恐ろしいほどの格差があります。この恩納村がなぜ 34 億 200 万円の納税を獲得しているのかという最大の要因は、旅行社の JTB とふるさと旅行券 30 万円の宿泊券の贈呈がありまして、これがヒットしまして 34 億のふるさと納税額を達成している状況です。

そういう状況を理解したうえでの、村長が伊平屋村のふるさと納税 2 億円を達成すると明確に公言をしていますが、現在の時点で、それを達成するための具体的な計画とか方策を、村長がお持ちなのかどうか。2 億円を達成すると明言していますので、現時点でこういうことをして絶対達成できるんだという確信があるのかどうか、そのへんを教えてください。

■議長（金城信光） 答弁、真栄田孝村長。

■真栄田孝村長 それではお答えします。2 億円、大きいです。でも 2 億円を納税する自治体はあるということは確かです。目指せるのは目指せると思います。まだ 3,000 万しかないですが、伸びしろは全然あると思っています。先ほどの答弁と重複するんですが、必ずこれということはないです。ですので、やはりこの 2 億円に向けて、2 億円が獲得できたらこういうことができるっていうのを、自分はこういうことをしたい、こういうメリットがありますよということで、いろいろ書きました。この 2 億円が不可能ではないっていうことを皆さんに分かってもらいたいというのが一つあります。とりあえずは先ほどの答弁どおり、これに向けて住民、事業者等と、商品開発やいろいろなサービスを目指して頑張っていきます。以上です。

■議長（金城信光） 続きまして、住民課長。

■名嘉彰住民課長 野甫議員の一般質問にお答えします。先ほどの村長の答弁とも重複するかもしれませんが、本村の令和 5 年度の返礼品の数はおよそ 40 品目で、寄附金が 430 万でした。令和 6 年度は 200 品ほどで 3,300 万でございます。今年度、7 年度は 227 品目ということで、予算額で見ますと 5,000 万という見込みとなっております。

ちなみに返礼品の人気の商品は、オリオンビール、野甫の塩、上原水産のマグロ、瑞穂酒造のラム酒、キーツマンゴー、粉黒糖などとなっております。また、ふるまちペイという新しいかたちの納税のスタイルの納税も始まっております。今後、数だけ増やすのではなくて、寄附を集めることができる目玉となる商品、返礼品を

どのように作っていくかが、寄附金を向上させるためのカギとなってくると思います。

現在村内にある生産物の可能性を検証しつつ、新たな生産物を導入し、商品開発をしていきます。村長が申し上げたとおり、都会ではできないような体験型の旅行パック等も展開していき、寄附額の増を目指してまいります。以上です。

■議長（金城信光） 野甫議員。

■7番 野甫英芳議員 村長のただ今の答弁では、具体的な方策はないということですね。この2億円を達成している市町村を見ると、まず南風原町が4万1千人、本部町が1万2千人、金武町が1万人、国頭村が4,400人いるんですよ。伊平屋村は1,100人ですよ。こういう2億円を達成している4万人とか1万人とかいう自治体がなんとかして2億円を達成している状況ですので、現在村長が具体的な方策はないということですので、ぜひ、行政や島の皆さんと協力して、確実に2億円を達成していただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

また、村長は自身の選挙公報で、伊平屋村の財政状況の説明で、「村の借金が40億」「高すぎる固定費」「心許ない貯金^{ころもと}」などを取り上げまして、「収入のほとんどを国からの仕送りに頼っている」、「年収の3倍のローンを抱え、その返済や固定費で、使えるお金はほとんど残らない、非常に厳しい現状である」と報告しております。

今回の令和6年度の決算議会での村予算執行状況を村長も一緒に確認したと思うんですけど、伊平屋村の基本収入、村民税は、村民が払う税金はわずか3,500万なんですよ。法人税が540万、合わせて4,000万だけの収入なんですよ。住民

が払う税金は 4,000 万だけです。それを補うシステムで国勢調査に基づく国からの地方交付税として 14 億 9,000 万が支援されます。今回の決算審議会で村全体の予算状況を見てよく分かったと思いますが、自主財源は 7 億円です。依存財源が 39 億、そしてその支出が、総務管理費、民生、衛生、農林、土木、商工、教育、消防、その他国民健康保険、港湾、後期高齢、歯科診療、船舶など、住民生活に必要な支出がごまんとあるわけです。

それを支えるためには、予算推定額で 50 億円を計上していました。ですから、おそらく今度も 40 億から 50 億の予算が必要になると思うんですが、今回の決算議会報告から、こういう村の状況を理解したうえで、村長がこれから取り組む財政改革をするとこちらで述べておりますけど、今回の 69 月の決算報告を聞いて、村長は新たにどのようにお考えになっているのか、そのへんをお聞かせください。

■議長（金城信光） 真栄田孝村長。

■真栄田孝村長 お答えします。今回、見て、村税は 8,000 万ぐらいあったんじゃないかなと。4,000 万って言っていたんですけど、たぶん 8,000 万から 9,000 万ぐらいの税収はあったんじゃないかと。

今回、決算で財政を見て、やはり厳しいなど、思っていた以上に厳しいというのを感じました。その中で、これからどこにメスを入れていくか、どこを変えていけばこの財政が変わるのかということ、担当課を含めていろいろ考えながらやっていきたい。

何かあった時の基金も少ないですし、そこらへんもてこ入れしていきたいと思えますので、はっきり言ってどこどこって言うのは言えないんですが、今回の決算を

通じて、やはり考えていかないといけないというのは重々感じました。以上です。

■議長（金城信光） 野甫議員。

■7番 野甫英芳議員 村長はまだ就任したばかりで村財政を詳しく理解できていないと思いますので、これからいろいろ調べられてやっていかれたらいいかと思えます。

村長の理想とするこれからの伊平屋島ということで、「未来への道筋を作る」「島の血管を太くする」「交通アクセスを良くする」「命と可能性を守る」「全島デジタルインフラ整備」「島の産業改革」「稼げる農林水産の実現」「新しい島の仕事創出」など、基本として島の人口減少問題も解決するとの素晴らしい勢いがありますので、村長が現時点で考えている将来の伊平屋村が、そういう素晴らしい世界になるように期待しています。ぜひ達成するよう、よろしく願いいたします。